



胸部炎症疾患

胸部炎症疾患は肺に何らかの異常が起きている状態で、良性のものと治療が必要なものがあります。当院では、肺の検査として胸部X線検査・胸部CT検査を行っています。



胸部X線検査



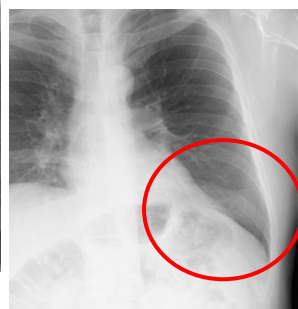
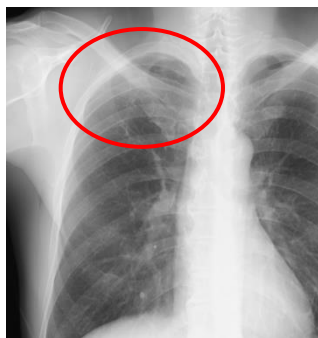
胸部CT検査

陳旧性炎症性変化

現在炎症が起きている疾患ではなく、過去に何らかの炎症疾患に罹患していた肺に見られる所見です。すぐの治療は不要ですが、画像所見が変化しないか、定期的に検査をして経過観察する必要があります。

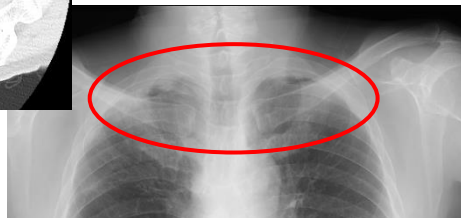
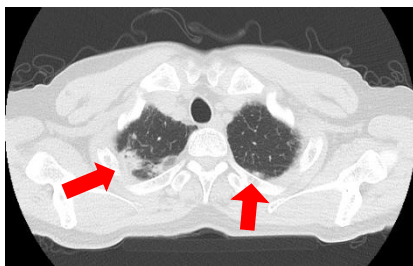
線状・索状影

特に胸部X線画像にて細長い「線状」に見える陰影と、太い縄や綱のような「索状」に見える陰影のことを示しています。ほとんどの場合、過去に風邪をこじらせてしまったり、自分でも知らない間に軽い肺炎などにかかって治癒したりしたときの傷跡のようなものです。まれに気管支拡張症等の病的な意味を持つことがあるので、精密検査の判定があった場合は、速やかに外来を受診してください。



胸膜肥厚

肺を覆っている胸膜が、何らかの原因で炎症を起こして、その後に治癒すると、胸膜が厚みを帯びることがあります。この肥厚が高度な場合には、肺結核や胸膜腫瘍を疑うことがあるので、精密検査の判定があった場合は、速やかに外来を受診してください。

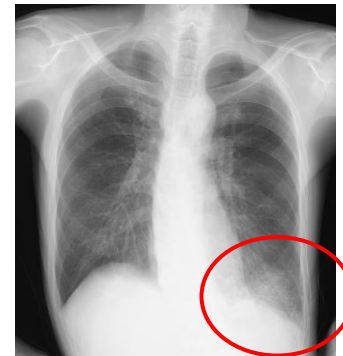


肺炎

肺の炎症疾患の総称です。一般的には肺胞腔や肺胞上皮などの肺実質の急性炎症を指しますが、広義には肺間質の炎症による間質性肺炎を含みます。

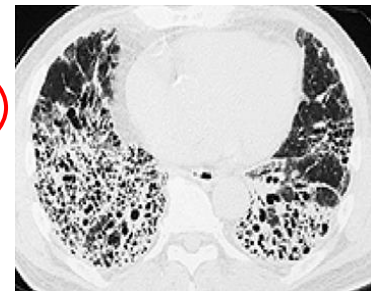
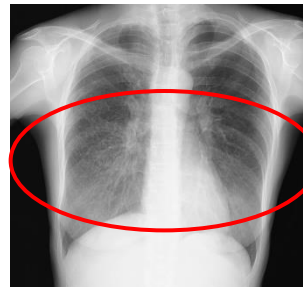
実質性肺炎

肺炎は、気管支や肺実質（肺胞腔・肺胞上皮）中心に起きる炎症の総称です。炎症細胞（リンパ球、好中球）が肺胞内に分布して、肺胞内に浸出液が浸潤している状態が浸潤影として描出されます。



間質性肺炎

間質性肺炎は、実質性肺炎とは異なり、肺の間質を中心に炎症をきたす疾患の総称です。間質で炎症が進むと、間質部分が厚くなり、形も不規則になります。肺胞内には浸出液などの貯留はほとんどなく、画像上はすりガラス状の陰影として描出されます。



https://www.jrs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=20

出典：日本呼吸器学会

新型コロナウイルス感染症

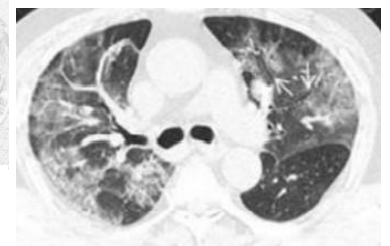
ウイルス性肺炎の特徴として、初期では抹消のすりガラス影、重症化すると肺全体に炎症が広がって白く描出される等、特徴的な所見が見られることがあります。

しかし、新型コロナウイルス感染症の診断には、CT 以外の検査結果も必要です。



↑ 初期（発症から7日以内）

↓ 進行期（8～14日）



<http://jert.jp/news/covid19/>
出典：日本救急撮影技師認定機構

検診で異常が指摘された場合、精密検査を受けることで早期の治療が可能です。
すでに症状がある方は特に、お早めに当院の外来へお越しください。

健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。
ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。
今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp